

kenichi.uwakubo@city.ishikari.Hokkaido.jp

- ・適度な起伏



＜ 計画内容の検討 ＞		＜協議会の開催＞	＜作業部会の開催＞
計画の目的、区域、期間の設定			
計画の位置づけの整理 (国または都道府県の自転車活用推進計画、地方公共団体の関連計画との関係の整理) 地域における目標、計画目標の設定 (上位・関連計画、現状・課題を踏まえて) 実施すべき施策及び講ずべき措置、実施スケジュールの検討 計画のフォローアップ及び見直し方法の検討 計画(素案)の作成 パブリックコメントの実施 計画(案)の作成 計画の策定	現状及び課題の整理 (地方公共団体の自転車関連の現状・課題の整理)	第1回 2018年8月8日 第2回 2019年1月21日 第3回 2019年3月25日	第1回 2018年10月18日 第2回 2018年11月22日

圖 5-1 檢討経緯

協賛関係者名簿				
所属区分	番号	氏名	所属機関	
地方公共団体	1	小嶋 雅雄	石狩市 企画経済部長	
	2	宮川 周祐	北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 計画課長	
	3	森谷田 健一	北海道開発局 札幌開発建設部 滝川道路事務所 工務課長	
	4	橋本 勝利	北海道 空知総合振興局 札幌建設管理部 当別出張所長	
関係する道路 管理者	5	岡田 洋治	石狩市 建設道路課 建設総務課 管理担当課長	
	6	角島 謙一	石狩市 企画経済課 緑地水産課長	
	7	谷口 清	北海道開発局 札幌川口事務所 計画課長	
関係する河川 管理者	8	中石田 敦二	北海道科学大学 工学部 都市環境学部 教授	
	9	松本 聡也	株式会社サイクリングフロンティア 代表取締役	
	10	谷田 和仁	札幌方面北支那支署 交通第一課長	
	11	岡 茂	石狩商工会議所 常議員	
	12	安部 隆典	石狩北商工会 理事	
地方公共団体 が必ずと望む 心ある北海道支 府、市、道等職 員、学識者等	13	藤原 敬	一般社団法人石狩観光協会 専務理事	
	14	佐藤 達代	一般公募	
	15	上林 謙一	一般公募	
	16	佐藤 洋一郎	北海道科学大学 保健衛生学部 理学療法学科 講師	
	17	中西 章司	石狩市 企画経済課 商工労働観光課長	

東京社会

【目標①】
「自転車交通の利便性を向上させ、安全な環境を創出する」

- 施策1
自転車通行空間の計画・設計の整備推進
 - ①自転車ネットワーク計画の策定
 - ②自転車通行空間の整備
 - ③自転車マップの作成
 - ④自転車利用促進に関する広報啓発
- 施策R
サイクルスポーツ振興の推進
 - ①競技施設等や公園等の有効活用の促進
- 施策S
自転車を活用した健康づくりの推進
 - ①健康増進の広報啓発
 - ②健康意識調査等に関する調査研究
- 施策T①
自転車通学等の促進
 - ①自転車通学の広報啓発
 - ②地方公共団体の庁舎における駐輪場の整備
- 施策T②
世界に誇るサイクリング環境の創出
 - ①県民生活による先進的なサイクリング環境の整備
 - ②広域域的サイクリングルートへの整備
 - ③サイクルレーン等の実施検討
 - ④サイクルシェアリングサービスの事業の要請

【目標②】
「サイクリングの魅力を高め、観光の活性化を図る」

ある健康意識の醸成と、
サイクリングの振興等に力を活用し、
地方の活性化に貢献する。

②庁舎等への自転車配備

白松平通勤の広報台元

次年度以降も取組を継続

[illegible]

1. 2015年12月31日以前，在北京市行政区域内，从事网约车经营活动的驾驶员，应当取得北京市道路运输从业资格证。

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/soshiki/kikaku/44351.html>

茨城県における自転車活用の 推進に向けた取組

令和元年8月30日
茨城県政策企画部地域振興課
交流プロジェクト推進室 室長 中村 浩
hir.nakamura@pref.ibaraki.lg.jp

(1) 茨城県のポテンシャル②

空港

茨城空港 Ibaraki Airport ～北関東の空の玄関口として知名度が向上～

○国内線

札幌（新千歳）	（スカイマーク）	2便/日
神戸	（スカイマーク）	2便/日
福岡	（スカイマーク）	1便/日
那覇	（スカイマーク）	1便/日

○国際線

上海（浦东）	（春秋航空）	6便/週
台北（桃園）	（タイガーエア台湾）	2便/週
ソウル（仁川）	（エースター航空）	3便/週

○最近のチャーター便情報

- ベトナム（ノイバイ国際空港）へ運航！
航空会社 パンアセア
運航期間 2019年4月28日～5月2日
- 国内各地・離島（長崎・小松（石川）・種子島等）へも運航
→開港以来初となる広島空港、花巻空港、
松山空港への運航も決定！（9月～10月ごろ）



2

(3) 全国初！駅直結サイクリング拠点施設「りりんりんスクエア土浦」



場 所 首都圏からの玄関口 J R土浦駅ビル内
ターゲット サイクリング初心者から愛好者まで、幅広い方々
ね ら い 交通人口拡大等による地域の活性化

平成30年3月29日にオープン！

- 延床面積 959.1㎡ ○供用時間 AM10時～PM6時（年中無休）

- 【1F 主な機能】（面積：581.3㎡）
サイクルショップ、レンタサイクル、情報発信、コミュニティゾーン、組立、メンテナンス、洗車サービスコーナー
【B1F 主な機能】（面積：377.8㎡）
セキュリティ完備のシャワー、ロッカー、更衣室、レンタサイクル保管スペース

「PLAYatré」
株式会社アトレでは、JR土浦駅ビル「ヘルチ土浦」を日本最大級の
体験型サイクリングリゾート「PLAYatré」としてコンバージョン。

- 【開業スケジュール】
平成30年 3月29日 第1期開業（1F・B1：店舗、B1：駐輪場）※写真左
平成31年 4月26日 第2期開業（2・3F北：レストラン 等）
令和元年 5月31日 第3期開業（2F南：マーケットゾーン 等）
令和2年 春以降予定 第4期開業（3F南・4～5F：サイクリングホテル）

4

(4) いばらき自転車活用推進計画について②

○施策目標及び実施施策（主なもの）

施策目標1「サイクルツーリズムの推進による地域の活性化」

- ・ターゲットごとの地域特性を踏まえたセグメントに合った多彩なサイクリングの提供
- ・つくば霞ヶ浦りんりんロードのナショナルサイクリングルートの認定に向けた環境整備や各地域の幹線となるモデルルート数の拡充
- ・タンDEM自転車等の公道走行の推進 など



施策目標2「自転車交通の役割拡大に向けた自転車通行空間の整備」

- ・広域のサイクリングや日常利用者の安心・安全・快適な自転車通行空間を整備するための整備方針となる「いばらき自転車ネットワーク計画」の策定 など



施策目標3「自転車事故のない安全で安心な社会の実現」

- ・未就学児から高齢者までのライフステージに応じた取組を体系化し、よりきめ細やかな安全教育につなげていく など



施策目標4「自転車を活用した県民の健康増進」

- ・県内企業等への自転車通勤の推奨に向け、県庁における自転車通勤の促進に向けた検討 など

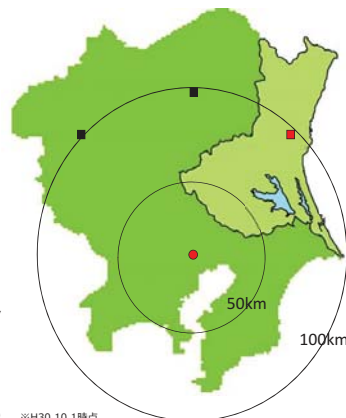


6

(1) 茨城県のポテンシャル①

- 首都東京から35～160km圏に位置
- 県北地域は阿武隈・八溝山系や変化に富んだ海岸線など優れた自然景観を有する。
- 県央から県南西地域は肥沃な平野が広がる豊かな穀倉地帯
- 筑波山や全国第2位の面積を有する霞ヶ浦、ラムサール条約登録沼地帯である渦沼など、水と緑に恵まれた多彩な県土
- 「常陸風土記」には「土地が広く、海山の産地も多く、人々は豊かに暮らし、まるで常世（理想郷）のよう」と記載
- 気候も温和で、全国第4位の可住地面積を有し、ゆとりある居住環境を備え、都市的な生活と自然の豊かさを享受できる暮らしやすい環境

＜県内総人口＞ 2,877千人（全国第11位）
＜道路実延長＞ 55,747km（全国第2位）
＜県内総生産＞ 12兆9920億円（全国第11位）



※H30.10.1時点
※H29.10.1時点
※H27年度時点

1

(2) つくば霞ヶ浦りんりんロードを活用した地方創生の取組

○サイクリングを軸に筑波山や霞ヶ浦などの豊かな地域資源を結びつけ、東京圏からの優れたアクセス性を活かしながら、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができる、日本一のサイクリング環境の構築を目指します。

快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

- 自転車走行空間の整備
・相成駅周辺の路線車を利用整備した「つくばりんりんロード」に霞ヶ浦湖沼の周回を一体化し総延長180kmとなるサイクリングコースとして設定し、安全で快適な自転車走行環境の整備を進めています。
- ルート案内や注意喚起等のサイン整備
・初めて訪れたサイクリストでもわかりやすいルート案内や安全で快適に走行できるようなサインによる注意喚起等のサイン整備を進めています。

サイクルツーリズム推進のための取組

- 最新スポーツバイクによる広域レンタサイクルシステムの導入
※貸出店舗：10箇所、貸出自転車：スポーツバイク等109台
- 地域の魅力を活かしたサイクリングイベント等の開催
- 多言語に対応した情報発信
- JR駅直結のサイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」の整備
- 県民利用向けのサイクリング拠点施設「りんりんポート土浦」の整備
- 官民一体となった推進体制の構築

※つくば霞ヶ浦りんりんロード利用開始後（2018年7月～）
⇒サイクルツーリズムの取組を県内全域で推進



つくば霞ヶ浦りんりんロード
自転車利用者数（人）
R2（目標） 110万人
↑
H30 約8.1万人
H29 約9.5万人
H28 約4.8万人
H27 約3.9万人

3

(4) いばらき自転車活用推進計画について①

いばらき自転車活用推進計画 概要

- 全国的にコンパクトなまちづくり等を支える移動手段として自転車活用の動きの高まりに加え、サイクルツーリズムを通じた地方創生の取組が活発化
- 本県では、クルマ社会に伴う交通渋滞対策や高齢者の移動手段の確保等の問題が顕在化する一方、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を核とした地域活性の取組が進展
- 自転車活用推進法の施行により、国をあげて自転車活用の気運が急速化

- 誰もが安全・快適に走行できる自転車走行空間の整備に加え、自転車利用者だけでなく、自動車運転者や歩行者を含めた、きめ細やかな交通安全教育の徹底や交通安全意識の向上が必要
- 生活習慣病の予防などにもつながる自転車、県民の健康寿命の延伸や子どもの体力向上等につながる必要がある
- 公共交通やまちづくりにも連携しつつ、新たな観光需要の掘りおこしに向け、自転車を観光誘客のツールとして全県でさらに積極的に活用していくことが必要

推進期間：2019年度から2021年度までの3ヶ年

自転車活用を通じた目指すべき将来の姿

誰もが安全・快適に自転車を活用することができる地域社会の実現

自転車活用を全県で総合的・計画的に推進するため、以下の4つの施策目標を設定
県だけでなく、市町村や民間など多様な主体が適切な役割分担の下、本県の自転車活用を図っていく

5

(4) いばらき自転車活用推進計画について③

○いばらき自転車ネットワーク計画

- ・県民の自転車利用を促進するため、市町村自転車ネットワーク計画では網羅できない広域的な範囲について、利用ニーズを的確に捉え、安心・安全・快適な自転車通行空間を選定し、その整備方針を定める。

基本方針	
①地域資源等を活用した広域のサイクルツーリズムへの対応	③市町村を跨ぐ広域の日常利用への対応
②県民が楽しめる広域のサイクリングへの対応	④自転車の事故や危険箇所への対応

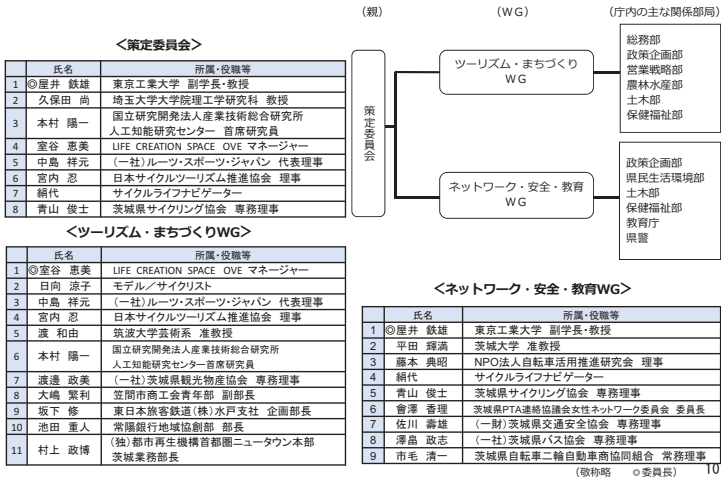
ネットワーク路線の選定	
広域のサイクリングを 対象としたネットワーク	広域の日常交通を 対象としたネットワーク
・市町村域を越える周回ルートを基本 ・原則、県管理道路を最短で結ぶ ・既存のサイクリングロード等を活用 など	・市町村域を越える通勤や通学での移動を主に対象 ・原則、県管理道路を最短で結ぶ ・市町村の自転車ネットワーク計画路線がある場合は、それらを優先的に結ぶ

7

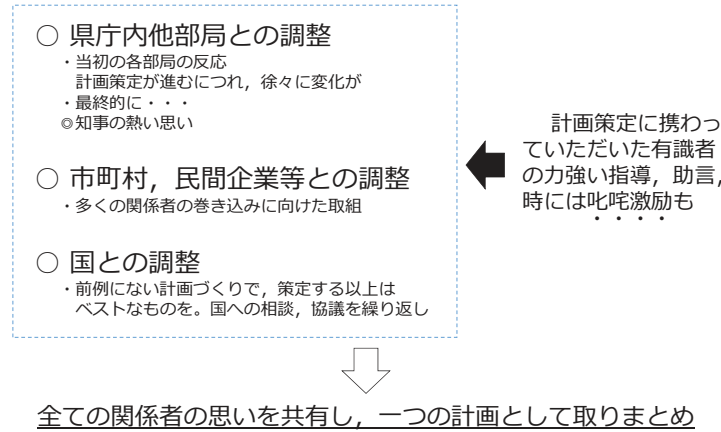
(4) いばらき自転車活用推進計画について④



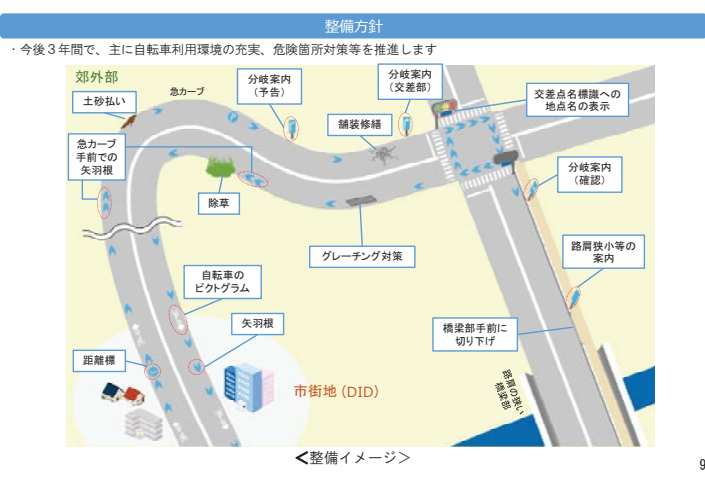
(5) 策定体制



(7) 関係者との協議・調整



(4) いばらき自転車活用推進計画について⑤



(6) 策定スケジュール

●第1回計画策定委員会	(平成30(2018)年6月12日)
○第1回ツーリズム・まちづくりWG	(平成30(2018)年7月10日)
○第1回ネットワーク・安全・安心WG	(平成30(2018)年7月23日)
○第2回ツーリズム・まちづくりWG	(平成30(2018)年8月22日)
○第2回ネットワーク・安全・安心WG	(平成30(2018)年8月29日)
●第2回計画策定委員会	(平成30(2018)年10月23日)
○第1回ネットワーク計画個別会議	(平成30(2018)年12月6日)
○第3回ツーリズム・まちづくりWG	(平成30(2018)年12月7日)
○第2回ネットワーク計画個別会議	(平成30(2018)年12月13日)
○第3回ネットワーク・安全・安心WG	(平成30(2018)年12月20日)
○第3回ネットワーク計画個別会議	(平成31(2019)年1月17日)
●第3回計画策定委員会	(平成31(2019)年2月20日)

計画策定委員会だけでなく、WGを設けることで、より地域に密着し、専門性の高い議論を行う

＜平成31年(2019年)3月 庁議決定＞

(8) 今後の課題

- 計画は策定したが、これをどう推進していくか。県だけではなく、市町村や地元の理解や協力が不可欠。
 - 特に最重要施策である**サイクルツーリズム**をいかにして全県へ広げていくか。
 - ⇒ そのためには、**走行空間や安全教育**などの基盤づくりが最も肝要。(県版ネットワーク計画やライフステージ別安全教育などを位置付け)
 - ⇒ **ターゲティングや地域の特性等のセグメント分け**などの戦略性を持ったツーリズムを展開。自転車活用の機会創出のきっかけとなる、**健康増進**の視点など、サイクリストだけでなく、**幅広い層へ施策を浸透**させる必要。
- 自転車文化が地域に根付き、自転車の活用による地域の活性化の実現へ、模索は続く。**